令和6年第16回宝塚市教育委員会の会議（定例会）会議録

- 1 開催日 令和6年11月15日（金）
- 2 場所 宝塚市役所 3B会議室
- 3 開会時間 午後 1時30分
- 4 閉会時間 午後 2時35分
- 5 出席した委員の氏名
赤井 稔教育長、木野 達夫委員、松浦 一枝委員、石井 克馬委員及び春日井 敏之委員
- 6 除斥した委員の氏名
- 7 委員及び傍聴人を除く、議場に出席した者

管理部部長	高田 輝夫	教育企画課長	岡本 進
学校教育部長	藤川 明人	学校教育課長	石田 勝久
社会教育部長	番庄 伸雄	教育研究課長	辻 晃英
管理部次長	上治 秀臣	教育企画課係長	板垣 慎一郎
管理部次長	池本 和義	学校教育課係長	小椋 文也
学校教育部次長	西口 信幸	学校教育課係長	大善 雄
学校教育部次長	前田 政子	学校教育課係長	小池 明生
学校教育部次長	山下 昌裕		
- 8 会議の書記
教育企画課事務職員 中瀬 陽子
- 9 議題
報告事項 令和6年度（2024年度）全国学力・学習状況調査「宝塚市の結果概要」の作成・配布について
報告事項 令和6年（2024年）度8月及び9月における宝塚市立学校の「いじめ事案」について

会議の概要

開会 午後 1時30分	
赤井教育長	令和6年第16回宝塚市教育委員会の会議（定例会）を開催いたします。 傍聴希望の方はいらっしゃいますか。
岡本課長	おられません。
赤井教育長	本日の署名委員は松浦委員です。よろしくお願いいたします。 本日の付議案件は、議決事項以外の案件2件です。 それでは、進行について事務局からお願いします。
岡本課長	本日の付議案件は、議決事項以外の案件2件です。 案件は、報告事項 令和6年度（2024年度）全国学力・学習状況調査「宝塚市の結果概要」の作成・配布について、報告事項 令和6年（2024年）度8月及び9月における宝塚市立学校の「いじめ事案」についてです。 審議の順番としましては、全国学力・学習状況調査、いじめ事案、の順でお願いします。 「いじめ事案」につきましては、個人に関する内容を含むため、非公開での報告でお願いします。 ご審議のほどよろしくお願いいたします。
赤井教育長	それでは、報告事項 令和6年度（2024年度）全国学力・学習状況調査「宝塚市の結果概要」の作成・配布について、担当課より説明をお願いいたします。
辻課長	それでは、ご報告をさせていただきます。 令和6年4月18日（木）に実施された全国学力・学習状況調査について、宝塚市の結果データは本年度も教育委員会事務局の指導主事および大学教授による「学力調査分析チーム」によって分析しました。 このたび、「宝塚市の結果概要」がまとまりましたのでご報告いたします。 このデータは、12月上旬を目途に宝塚市教育委員会のホームページに掲載し、一般公開します。また、市立小・中・特別支援学校の保護者及び幼稚園・小・中・特別支援学校の教職員には、文書にて周知いたします。

それでは、お手元の冊子の4ページ目からご説明いたします。

1番目には調査の目的、2番目には調査の対象人数および内容、3番目には本市・本県・全国の各教科の平均正答率と全国平均との比較による宝塚市全体の傾向を掲載しています。

平均正答率には、昨年度の結果も参考として記載しました。全国学力・学習状況調査は、作問上、年度ごとに問題の難易度が統一されていないため、平均正答率を用いた年度間比較はできません。

そのため、全国平均正答率との差を用いて、本市の学力の大まかな傾向を把握しています。全国平均正答率と比べると、小学校国語と中学校国語は「おおむね良好」、小学校算数および中学校数学は「良好」という結果となり、過去3年間の結果と比較して、学力の傾向に大きな変化は見られませんでした。

5ページからは、今年度オンラインで実施した児童生徒質問調査結果より、「当てはまる」または「どちらかといえば、当てはまる」と肯定的に回答した児童生徒の割合を示しています。また、宝塚市の「重点施策」に該当する項目には、施策番号を記載しました。

「学習に関する関心」について、国語や算数・数学の「授業の内容はよく分かりますか」という質問に対しては、全国と比較して高い結果になりました。

しかし、それ以外の項目については、全国平均を下回るものが多く見受けられました。重点施策3として、「魅力ある授業」「わかる授業」の展開を重視していることから、学習に関する関心が総じて全国平均を下回っている現状を課題として認識しています。従来の一斉授業に加え、ICTを一つのツールとして活用することで、個別最適な学びを実現し、より理解しやすく魅力的な授業を展開できるよう取り組みを進めています。

「各教科の調査時間の適切性」に関する質問では、中学校数学において「解答時間は十分でしたか」との回答が、全国平均よりも5%高い割合を示しました。

一方、小学校国語では全国平均を大きく下回りました。この傾向は、「教

科に関する調査結果」における「無解答率」と関連していると考えられます。無解答率は、問題が後半になるにつれて増加しており、「自分の考えをまとめる力」や「時間配分ができていないこと」が一因であると推測されます。

6ページです。

例年、「規範意識・自己有用感」の領域における肯定的な割合の低さが宝塚市の課題となっています。特に「いじめはどんな理由があってもいけないと思いますか」という項目については、肯定的な割合をさらに増加させるために、学校生活のさまざまな場面で指導を行う必要があります。今年度も昨年度と同様に、「学校に行くのは楽しいと思いますか」という質問には肯定的な回答が多く見られました。しかし、「将来の夢や目標を持っていますか」や「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」といった質問に対する肯定的な割合は、依然として低い傾向にあります。

「読書への関心」については、重点施策7で読書活動の推進を掲げています。「あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか」という質問に対して、小学校・中学校ともに全国平均と比べて、家庭に本が多い傾向が見られました。

ただし、読書に関する質問項目はこの1つのみで、「読書は好きですか」や「学校の授業時間以外に、普段、1日あたりどれくらいの時間、読書を読みますか」といった昨年まであった質問項目が含まれていないため、今回の調査では子どもたちの読書への関心を直接図る指標がありません。それでも、昨年の課題であった子どもたちの読書離れを防ぐため、事務局としては引き続き取り組みを続けていきます。

7ページでは、授業改善に関する取り組み状況を掲載しています。

これまでの調査からも、主体的な学び、対話的な学びに肯定的な回答が学力向上に寄与することが分かっており、主体的で対話的な深い学びを構築する授業づくりをさらに推進していきたいと考えております。

8ページでは、「ICTを用いた学習時間」に関する児童生徒の利用状況を

示しています。「前学年までに受けた授業でPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか」という項目では、昨年の本市の結果と比べて、週3回以上使用している割合が小学校ではほぼ横ばい、中学校では約13%増加していることがわかりました。しかし、全国平均と比較すると依然としてその差は大きい状況です。また、「PC・タブレットなどのICT機器を活用することは、自分のペースで理解しながら学習を進めることができる」といった質問項目でも全国平均を下回っているため、本市では授業でICTが効果的に活用されていない可能性が考えられます。今後、「個別最適化」や「協働的な学び」の実現に向け、タブレットPCは有効なツールとなり得ます。ICT活用の促進のため、環境整備や教職員への研修を充実させ、各校が現状を把握しながら、より効果的なICT活用を目指して取り組んでいきます。

9～12ページでは、「教科に関する調査結果」から得られた内容を掲載しています。

各教科で学習指導要領の領域別に本市と全国の正答率を示し、「宝塚市の傾向」「よくできていること」「課題と学びのポイント」をまとめました。

教職員には「学びのポイント」で提示された授業方法や、国立教育政策研究所からの「授業アイデア例」を参考に、授業改善に努め課題を克服していただきたいと考えています。

最後の13ページには、「宝塚市の児童生徒の学習と生活の充実のために」というテーマで、「第2次宝塚市教育振興基本計画」の基本目標や重点施策を紹介し、教育委員会としての方向性を示しています。

この「宝塚市の結果概要」は教育委員会のホームページに掲載し、宝塚市立小・中学校を通じて児童生徒、保護者、教職員に周知するとともに、広く市民の皆様にもご覧いただけるようにいたします。

教職員におかれましては、宝塚市の教育課題を共有し、幼・小・中の連携を意識した取り組みの参考資料として活用していただきたいと考えています。

今後も子ども一人ひとりを大切にする教育を推進し、ふるさと宝塚を大

切にする人づくりに取り組んでまいります。

報告は以上になります。

赤井教育長

はい、ありがとうございました。

何かご質問等ありますか。お願いします。

木野委員

質問じゃないけど、意見です。

5ページの「国語の勉強は好きですか」この辺りなんですけれども、中学生なんか特に、全国でもポイントが低いですね。

それと1番下ですね、「国語の授業で学習したことは将来社会に出た時に役立つと思いますか」かなりポイントが低いんですね。

これ、算数、数学も似たような傾向がありまして、最初国語だけがそうなのかなと思ったんですけど、算数、数学の傾向が、どういった理由からかなと思うんです。

推測の域は出ないんですけども、点数は高いんですよ、宝塚市は。勉強はできているんですけども、「社会に役立つと思いますかとか」「大切だと思いますか」が、高いポイントを示していないというので、ちょっと私なりに考えたら、あくまで推測にすぎませんけども、受験のために勉強しているという姿が浮かび上がってくるんですね。その辺りが、気になるなっているのが1つあります。

もう1つ、前から言われてましたように、国語の回答時間が十分でないというところで、記述式なんか弱いなではないかと言われてるようなんですけども、この辺りも、学校の問題なのか塾の問題なのかかわからないんですけども、テスト対策というか、そういう対策を中心にやっていて、もしかしたら、自分の頭で考える力がないのでこういう結果になっているのではないだろうか。

もしそうだとしたら、かなり心配ですね。ちょっと心配だなというところですね。意見というか感想です。

赤井教育長

ありがとうございます。

何かありますか。

辻課長

委員がおっしゃったとおりで、我々もそういう風な予測と言いますか、推

測してるんですけども、「勉強好きですか」っていうところは、非常にやっぱり学校としても重く受け止めないといけないところかな、という風には思っています。

楽しい授業であるとか、役に立つと言いますか、本当に社会に出た後に、こういう風な使い方ができるんだよ、というようなところと、こう結びつけながら、学びを深めていかないといけないと思います。今本当に国の方でも自己表現力っていうのはすごく提唱されていますので、そういった場面ですね、そういったところを意図的に授業で増やしていくっていう仕組み、仕掛けは必要なのかなという風には考えております。

赤井教育長 他に何か質問ですね、意見でも何かありましたらお願いします。

春日井委員。

春日井委員 今、重点施策が1から8まで最後のページにあって、それを特に意識して、この表のところでコメントをいただいたりという風に読ませてもらったんですが、課題ではあるけれども、不十分なので重点施策にして、特に意識してやろうっていうところで、全国平均と比べて低いというのは、それは1つの評価の視点なんですけども、宝塚市、前で見えた場合の、例えば同じ項目を重点にしておられると思うんですけどね、去年と比べて、経年と比べて、その変化はどんな感じなんでしょうか。

つまり、うちの市の現場の努力はどんな風に現れてるか、みたいなどころの指標も見る必要があるかなと。

でないと、とりあえず全国と比べて高い・低いかということは1つの切り口ですけど、うちの市自体がどんな風に変化してるのかっていう辺りの、そんな資料は何かございますでしょうか。

辻課長 そういった資料は、ご準備できてないんです。

春日井委員 なるほど。

辻課長 傾向的には、そんなに大きくは変わってはいないところが、結論になります。

なので、やはりもう引き続きなんですけれども、進めていかないといけないっていうところは、認識はしております。

春日井委員 そうすると、その傾向は重点であるにも関わらず、全国と比較して少し課題があり、経年の変化を見ても、その変化の具合っていうのにもまた課題があるという風に見るとすればですね、それは一体何だろうかという辺りの、少し丁寧な分析がいきますよね。

でないと、毎年比べていて、同じ結果なんかを報告してても、それは施策とは言いにくいので、その上で、どういう取り組みをしたらいいのかっていうあたりの検討をしてもらう必要があるかなっていうのが1つです。

それからもう1つ、さっきの木野委員の意見とも関連するんですけども、点数は一定取れてるっていう、その要素は一体どこにあるのか。

お家の教育力かもしれないし、塾で一生懸命勉強しておられるかもしれないし。

で、多分、課題なのが、個としての学びと同時に、その協働の学びっていうか、そこですよ。だから、今まさに全国的にも課題になってる探求型の学びだとか、協働の学びだとか、その個別最適な学びと協働の学びっていうあたりの2本柱で言うと、個々は一生懸命学んでおられる、で、成果も出しておられる。けども、協働の学びの具合はどうなんだろうかっていうのが、多分課題でね。

うん、そこが学校現場でどういう風に展開されていくのかっていうのが、具体的な施策のポイントになるんじゃないかなと。そのことによって、先ほどの全国平均、なかなか課題があるというあたりの変化も出てくるのではないかなっていう風に、思ったりしてるんですけどね。

その辺りはどうでしょうか。

辻課長 本当に仰るとおりで、我々もそこはすごく認識をしております、今の学校に出向いて研修とかも今してる場所なんですけれども、本当に協働的な学びであるとか、探求型の学びですね、そういったところの授業スタイルと言いますか、そういった研修も含めてやってるところです。

もちろんメインは、ICTの活用っていうところもありますので、そこも含めてなんですけれども、ICT機器を活用した、そういった学びをやっていきましょうと。ICT機器がそういったところの重要なピースになりますよって

いうところも含めて、検証を進めてるところですので、これから様子を見ながらですね、各学校の取り組みを見させていただこうかなっていう風には思っています。

春日井委員 このICTの学びって、ほっとくと個別最適な学びで、自分1人で調べ学習して、わかりました、っていうレベルになっちゃうので、その活用が協働の学びとか探求型の学びに、どう繋がっていくのかっていう辺りの工夫があるんですよね。

ただ使っていたらいいんだっていうレベルを超えて、どうそれを協働の学びに使ってるのかっていう、次の課題設定が多分必要じゃないかなっていう風に聞いていて思いました。

辻課長 仰るとおり、なかなかやはり先生方も色々な自分のスタイルと言いますか、そういったところありますので、そこをこうアップデートしていくっていうところが1つ必要なかなっていう風には思っています。

先生方の今までの経験を生かしたそのアップデートの仕方と言いますか、ICT機器など使ったりとか、その協働的な学びもほったらかしにするっていうわけではないので、やはり先生がファシリテーターとなって授業を進めていくっていうところの、この変換ですかね、そういったところを意識してもらっていうところを重点的に行っているところです。

春日井委員 いや、僕はICTをとにかく使ったら、学力も高まるし学びの質も深まるんだっていう風には必ずしもイコールだとは思ってなくて、むしろ逆に、そうじゃなくて、もうちょっとアナログ的な、対面で議論を直接するとか、あるいは本を読むとか、そういう点で宝塚が進めてるその読書を重点にするっていうのは、僕はとっても大事だと思っているんです。

でも、その読書のところだけ数値がちょっと低いですね。

重点にしてて、一生懸命図書館なんかも取り組んでおられて、読書活動をこの結果ではなかなか難儀やな、これ自体がっていう。

つまり、子どもたちの読書離れは宝塚も例外じゃなくて、そうすると、学校で図書館の活用とか、あるいは探求型の学びの参考文献を司書さんが紹介して、それを有効に活用するみたいな。出前図書館とかね、図書館に

来て探してくださいじゃなくて、この中1の探求の学び、中2、中3探求の学びにはこんな文献が使えますよみたいな、そういうような積極的な働きかけも含めてね、図書館の活用みたいなこともありうるかなとか。

ちょっとそんなことも思いながら聞いてました。またご検討ください。

赤井教育長 ありがとうございます。

松浦委員。

松浦委員 今の、図書館の関連なので、このもの自体とちょっと離れてしまうんですけど、伊丹市がこの秋に、子どものデジタル図書館っていうのをオープンしたんですよ。

以前、宝塚市でデジタルの本っていうのはどうですかって質問した時に、本の期限が決められてるので、コスパが悪いっていうので導入してませんっていう風にお答えいただいたと記憶しているのですが、デジタル本はチームで借りたりすることができるらしいんです。

なので、今までの紙の本だと、誰かが借りてたら他の人は借りれなかったのが、その何人かが借りれるっていうことなんですね。

だとすれば、例えば子どもが学習する時に、みんなでこの本を一緒に共有しようとかっていうこともできるし、コスト面で見ても、期限があっても大勢が1度に借りられるっていうことであれば、導入できるんじゃないかなと思ひまして。

またそれも合わせて、すいません、部署が違うことはよくわかってるんですけど、ちょっと心に留めていただけたらいいなと思います。

あともう1つ、お聞きしたいのが、これ毎年公開されてるんですけど、市民の方とか、保護者の方からって何か反応とかあるんですか。

辻課長 いや、特にそういうのはないですね。

松浦委員 全くないんですか。そうなんですか。

じゃあ、いつも公開しても特になにも反響はないんですね。

辻課長 そうですね。あんまり反応はありません。問い合わせとかはありません。

松浦委員 なるほど。はい、わかりました。ありがとうございます。

赤井教育長 それ、私もちょっと教えて欲しいのですが、公開してることは何かに周知

しているのですか。

辻課長 保護者の方にはお手紙を入れています。

石井委員 学校ごとの情報はお持ちですか。学校ごとの状況をお聞きしたいなと思ひまして。

山下次長 少し時間はかかるかもしれませんが、提出できます。

石井委員 じゃあまず6ページ目かな。

「地域社会、地域や社会を良くするために何かしてみたいと思ひますか」という、これが昨年より上がったのかどうか。特に中学生ですね、66.4ポイント、まだ低い。これはずっと低いっていう状況ですね。これは昨年と比べていいと思ひうんですね。

ただこれ、昨年度だと、中3の子が中学2年生の時のトライアルは、まだコロナ中だったんで、控えてた時期なんですよ。今年度中3の子たちは昨年なんで、もうトライアル通常でやってる世代の子たちなんで、ポイントがかなり上がってほしいなっていうのがあるんですけど、どうでしょう昨年との比較は。

辻課長 市全体ですか。

石井委員 市全体です。

辻課長 昨年はその値が、中学校の場合は53.3%でした。今年度については66.4%なんですけども、全国の方も、63.9%から76.1%上がっていますので、市としては増加してますけど、増加率っていうのを国と比べると、その差はあまり変わらないかなっていう風に思ひます。

石井委員 トライアルで地域と繋がるっていうのをやってると思ひうんで、何度か言ってると思ひうんですけど、職業体験じゃない、ここの部分、トライアルでもう一声上げていたらなっていうのがあります。

それから読書量のアンケートがなくなったってことなんですけども、これ重点施策なんで、どうなんですかね。市独自で今後アンケートの予定があるのか。

辻課長 また検討していきたいなと思ひます。

石井委員 そうですね。

本をどのくらい持っているかということ文科省とか結構言ってるけど、ここがね、本当にその家にある冊数と学力に相関関係があるのか。

子どもの読んでいる本の量を、アンケート取るようにしていただきたいなど。

ここから学校ごとなんですが、7ページです。

授業改善の方なんですが、この2つの項目で上2つ、中学校がちょっと低いかなっている感じではあるんですけども、特活に取り組んでいる小学校とか、その校区の中学校は、例えば光明小とか美座小とかのポイントが高いということがありますか。

高いのであれば、それをモデルにすればいいんじゃないかなっている。

どうでしょう学校ごとで。

辻課長 7ページの、ところですかね。

石井委員 そうですね。

辻課長 お時間いただいてもよろしいですか。すみません。

石井委員 はい。

春日井委員 今の質問の意図は、特活の取組をしていけば、それは授業改善にも繋がっているのではないかと、ということですか。

石井委員 特活のあのスタイルが広がっていけば良いのではないかと。

春日井委員 ということですか。

石井委員 協働の学びは協働の学び。

春日井委員 協働の学びっていう点でね。

石井委員 ただ、特活している学校がポイントが高くないのであれば、効果はないのかも。

辻課長 お時間ください。

春日井委員 それが得点のところにも繋がってるかどうか、とか。

石井委員 そうですね、そこもわかれば。

問題が、どれに当たるのかですよ。

この前の報告では、記述式問題の回答の空白が多いとかありませんでしたか。

辻課長 ありました。無回答率が多かったんですけども、そこは時間が足りなくて、最後の方の問題に固まってるんですね。その設問の最後の方なので、選択肢もあるんですけども、そこも無回答っていうケースが多いので、単純に時間が足りなかったのかなっていうところは、やっぱりあります。

記述問題が無回答率も比較的高いんですけども、そこは自分の表現するっていうところを、もっと自信を持ってできるかどうかっていうところで関係してくるのかなと思いますので、そういった取り組みも進めていく必要があるかなと思います。

石井委員 全国的に時間が足りてないっていうから。

あと8ページの方は、ICTなんで要はTGSとかわかればとか。

時間かかりそうですか。

辻課長 100点のところはTGSのところは非常に高いです。活用率は非常に高いです。

特に丸橋小学校は非常に高く、以前もちょっとお示しもさせていただいたかなと思うんですけど、全国レベルよりも相当高い、平均より高い数字が出ています。

山下次長 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、という質問をしっかりと。特活で力を入れている学校って、市内には沢山あるんですけども、例えばですね、光明小学校は長い間、特別活動の実践を踏まえておられるとかなんです。今の質問をしていると、光明小の場合だけですが、肯定的な意見で言うと、若干、全国より低いかな、というぐらいが見えます。

しかし、同じ光明小学校で、「あなたの学級では学級生活をより良くするために学級会で話し合い、互いの意見の良さを生かして解決をしていますか」というような質問になると、非常に全国よりも高いというような数字にはなってる。だから、授業の流れっていうのは良かったんです。

石井委員 それを活かしてないと思えるのか、子どもがそっちに意識してないのか。答えているのは子どもたちなんで。

これ難しいと思うんですね。うちの子も美座小なんですけども、多分子どもたちはその授業が当たり前なんですよ。こうやってわざわざ聞かれ

たとて、意識がない場合はあるかなと思います。

辻課長 他と比べてっていうのができませんので、子どもも自分が本当に目の前のものについて、それしか分からないと思いますので、なかなか答えにくいところもあるのかなっていうのは正直なところですね。

春日井委員 これは、特活でいろんな話し合い活動、やっぱ課題解決の取組をしてると、授業の方法の中に先生が意識的に取り入れて、こういうことが授業でもこんな風に活かされているんだよという風にして伝えることをしないと、多分子どもの中で自覚化されないと思うんですよ。

俯瞰的に見れば繋がってんだろうけれども、子どもたちが意識してないので、その前提に、先生方が少しそこを意識的に子どもに伝えてないので、その取組が授業に直ちに成果として出てるかっていうのが、見えにくいのかなっていう気はしますけどね。

でも、ちょっと繋げると、そういう特活での話し合い活動や、意見をお互い自由に出し合うようなことが、授業の中でもそういった話し合い活動とか、探求型の学びにね、とてもうまく繋がっていく気がしますよね。

石井委員 委員会の方では、自覚してそう答えてるわけですね。

山下次長 特別活動を推進していく学校の調査を1つだけ見てみると、学級活動では十分全国より上だけど、同じことを授業でって聞かれたら、こうなる今のようご指摘が、示唆が先生にあれば、上がるっていうだけなんだろうなという認識です。

石井委員 また来年あげていけば、それをまた各学校の方に広めて。特活はね、広めていっていただいて。そういう流れでいいのかな、授業改善に関しては。

ICTの方は、週3が中学生13%アップですね。多分丸橋小はほぼ毎日になってると思うんで、要は週3から次どう上げていくかっていうところを丸橋小に見習えばいいのかなって思います。

下の2つですね。自分のペースその個別最適と協働っていうところ。自分の意見はわかりやすくないで、プレゼンにはなるかもしれないですけども。ここは総合が中学生全国の半分ですね。ここも丸橋小は高いんですか。

辻課長 ここが全体的な活用率が低いので、ここもちゃんと子どもがイメージでき

てるのかどうかっていうところは、ちょっとクエスチョンがつくのかな、
というのは思いますね。

石井委員 丸橋小が高ければ、とりあえず利用頻度を高めていくことで、その個別最適とかプレゼンのところは自動で上がっていく。ちょっと丸橋が低いとなると、使ってるアプリとか、使い方なので。

辻課長 まずはタブレットの、その2つ目のところですね、「自分のペースで理解しながら学習できてますか」っていうところなんですけれども、「良くできる」とかの肯定的なところを2つ足すと、全国平均は84%程ですけども、丸橋小の場合は85%になってますね。

で、その下ですね、タブレットの自分の考えや意見をつけていうところですけども、そこが全国は78%ほどなんですけれども、79%ぐらいですね、丸橋小は。全国レベルかなという風に思います。

石井委員 私のフリースクールに丸橋小出身の子が来ていて、中学校へ行けなくなって私の所へ来ているんですけども、使い方が全然違う。比較するべきじゃないかもしれないですけど。

丸橋小の取組は早急に、丸橋小が高いのであれば各校に広める必要があると思います。

辻課長 そうですね。市内に広めていく必要があるかな、という風に思ってます。

石井委員 丸橋小って研究発表会はありませんでしたか。

辻課長 この11月27日に研究会ありますので、そういったところで広く発表してほしい、していきたいなと思います。

石井委員 だからこれ、中学校の話なんですけど、中学の先生方がどこまでっていう。

辻課長 中学で言いますと、南ひばりガ丘中学校、先日前持ちしたんですけども、そこは非常に先進的に進んでると思います。

午後で授業を進めていたりとかですね、そういった授業も取り入れてやっておりますので、そこも今TGSに指定している学校ですので、また発表もしていただけるかなと思っております。

石井委員 南び中はどうです。全国平均は。

辻課長 南び中は、そんなにまだ、データの的には高くないです。

- 石井委員　　そうですね。
- 辻課長　　ただ今年度からは本格的にスタートしています。
- 石井委員　　自主研のメンバー、先生方のメンバーを見ても、やっぱりその中学校にどう浸透させるかが課題だと思いますので、またよろしくをお願いします。
- 辻課長　　ありがとうございます。
- 赤井教育長　　他に、何かご質問は。
- 春日井委員　　冒頭、分析チームがあるって仰いましたよね。その分析チームはこの結果をどんなふうに分かされてんのかっていう辺り、現場にうまく伝えてもらうと。この結果だけじゃなくて、この結果から何が見えてくるかっていう、小学校の課題は何なのか、中学の課題は何なのかっていう値を、うまく伝えてもらうといいかな。
- 辻課長　　そうですね。
また校長会を通じてお伝えしたいと思います。
- 春日井委員　　それは、まだここには載らないんですね。これが分析チームの分析の結果ですか。
- 辻課長　　公表するに当たっての結果になります。
- 春日井委員　　これ、何かをどう分析していただいているんですかね。
つまり結果についての、こういう結果でしたっていうのはよう分かるけど、そこから何が見えてきて、どういう課題があるのかとか、うちの強み、どういう強みがあるのかとか、なんかその辺がうまく、どこを読んだらいいんですかね。
- 辻課長　　各教科のところであるとか、学びのポイントであるとか、そういったところでお示しをさせていただいているかなという風には思っているんですけども。
- 石井委員　　いや、学力もあると思うけど、学習条件はくないですか。
- 辻課長　　そういった意味では結果をお示しさせていただいていることになります。
- 春日井委員　　そうやね。
- 赤井教育長　　結果概要やね。タイトルのとおりやね。
- 春日井委員　　学力の学びのポイントっていうのが、その分析のコメントっていうのはわかりますけど。

石井委員 さっきの話なんですけど、保護者も、ただ学力の方だけやと思っているんですよ。

春日井委員 テストがね。

石井委員 メディアの使い方とか色々あるとは思いますが。

春日井委員 そうですね。

石井委員 でも、分析チームの方々も、さっきのその丸橋小とかは多分されてらっしゃいますもんね。

辻課長 はい。

そういったところは課題としてさせていただいて、今後ちょっと進めていきたいと思えます。

石井委員 モデル校があるんでね。

赤井教育長 他に何かございますか。

よろしいですか。

ないようですので、この件についてはこれぐらいにさせていただきます。

それでは、次に移ります。

続きまして、先ほど事務局から説明がありました通り、次の報告につきましては非公開ということにいたします。

報告事項 令和6年（2024年）度8月及び9月における宝塚市立学校のいじめ事案について、担当者より報告をお願いいたします。

【非公開での報告事項あり】

赤井教育長 本日の予定の案件は以上ですが他に報告いただくことはありますか。

岡本課長 ございません。

赤井教育長 それでは、本日の教育委員会を閉会いたします。

どうもありがとうございました。

閉会 午後 2時35分